

行政視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 玉置 真一

1 日 に ち	令和4年10月 3日 (月)
2 視 察 先	京都府亀岡市
3 参 加 者	【委員長】玉置真一【副委員長】三輪寿子 【委員】寺島芳枝、若尾敏之、加藤元司、井上あけみ、嶋内九一 【清掃事務所長】加藤義人【議会事務局】虎澤智子
4 調 査 内 容	かめおかプラスチックごみゼロ宣言について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか？ 亀岡市の取り組みについて、環境先進都市推進部より説明を受けた。 環境先進都市・亀岡市の一步は二人の船頭から始まった。 土岐川と同じように市の中心部を流れる保津川では、四季を通じての川下りが観光の目玉の一つである。しかし、川に溜まる、漂うプラごみが多い事から船頭による地道な清掃活動が始まった。 内陸部の自治体では初開催となる「第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議」を開催。流域から海洋ゴミの発生制御を考えるべきと、河川ごみ漂流状況モニタリング調査を実施し、亀岡市から大阪湾までわずか一日で到達する事実がわかり、内陸部からの発生制御対策が重要との結論に達した。 市の魚アユモドキに代表される多様な川の生態系にも影響を及ぼすことが危惧されている。そのため、2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指し「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信した。 【目指す目標】 ・プラスチック製レジ袋有料化を皮切りにレジ袋禁止に踏み切りエコバック持参率100%を目指す。 ・保津川から下流にプラごみを流さない。 ・発生するプラごみは100%回収し持続可能な地域内資源循環を目指す。 ・使い捨てプラの使用制限によりリユース食器や再生可能な素材へと切り替える。 ・環境に配慮した取り組みを支援し亀岡市のブランド力向上を目指す。 小さな活動でも共感を得ることができれば市民活動として発展していく典型的な事例であり、その中心のエンジンとしての役割が行政であると再認識した。 取り組みの中でも、①啓発のため、空と太陽、大地と緑、川と海をイメージしたロゴマークを作成。②こども海ごみ探偵団の活動、環境教育の実施などによる次世代育成。③ペットボトルの削減を目指す、マイボトル普及に向けた「亀岡のおいしい水」プロジェクトなどが参考になった。 多治見市でもすぐに実施できる取り組み、時間をかけて検討する取り組み、視野に入れるべき取り組みなどがあるが、環境に大きな影響を及ぼしているレ

ジ袋については、市民、提供する店から意見を聞き、慎重に進めるべきと考える。

ウォーキングをしながら行う身近で気軽に自由な新感覚の清掃活動「エコウォーカー」事業は、すぐにでも実施できると考える。また、「亀岡未来づくり環境パートナーシップ協定」の締結など、企業と共に取り組むことも視野に入れて検討するべきだと考える。

7 写 真 等



【亀岡駅南北通路】



【市庁舎ロビー、取組み紹介】



【市庁舎ロビー、市の魚アユモドキ】



【市庁舎ロビー、ボトルリサイクル】



【市庁舎ロビー、ボトルリサイクル】



※視察先 1 件に 1 枚作成すること。